

さいせい ふ じん うん どう
「**こころの再生**」府民運動

しょうがっ こう ねん
小学校 1・2 年

たい せつ み なお
「**大切なこころ**」を見つめ直して



大阪府教育委員会

「こころの再生」府民運動とは

むかしも今も、これからも、大切にしなければならぬ5つのこころ

いのち
生命を大切にする

おも
思いやる

かんしゃ
感謝する

どりよく
努力する

まも
ルールやマナーを守る

いちどみ なお
を今一度見つめ直し、

あいさつをする

ひとり みぢか く おこな
など一人ひとりが身近なとり組みを行うことをよびかける運動です。



子どもたちへ（大阪「こころの再生」宣言より）

きみたち一人ひとりが、多くの生命のなか、「ただひとり」の「生かされている」そんなことであることに気づいてほしいのです。そして、今一度、生命の大切さ、人としてのそんげんの大切さをかくにんしましょう。

よりよく生きるため、自分が一番大切にしたいこと。「一生けんめい努力する」「思いやりの心をもつ」「自分にせきにんをもつ」「かんしゃの気もちをわすれない」。ひとつでもいいのです。「こころ」のよりどころをたしかなものとするため、自分の『「こころ」のルール』をもちましょう。きめるのは、きみたち自身です。

自分のゆめやきぼう、目標にむかって、全力でとり組みましょう。「自分の本気」が、自分の未来をひらくのです。大人は、きみたちをおうえんします。

やってみなはれ。

このしりょうは、「こころの再生」府民運動の『5つのこころ』や『あいさつを大切にする』ことをテーマに、みなさんが自分の「こころ」を見つめ直し、身近なことからはじめてみるきっかけになるようにとねがい作成しました。みなさんの「こころ」にとどくことをきたいしています。



めんじゅ

「いのちの再生」府民運動とは

あの人からのメッセージ 上原浩治さん

あの人からのメッセージ 森脇健児さん

生命を大切に

●とく とく とく とく

ワークシート とく とく とく とく

思いやる

●ぼく いらん

ワークシート ぼく いらん

感謝する

●ありがとうの わ

ワークシート ありがとうの わ

努力する

●なわとび

ワークシート なわとび

ルールやマナーを守る

●ちりがみ ーっ

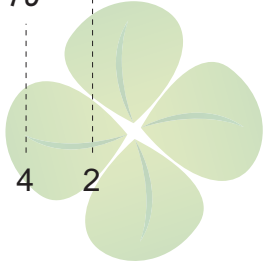
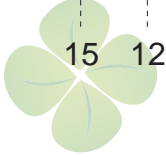
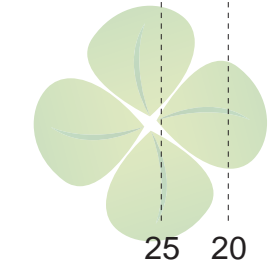
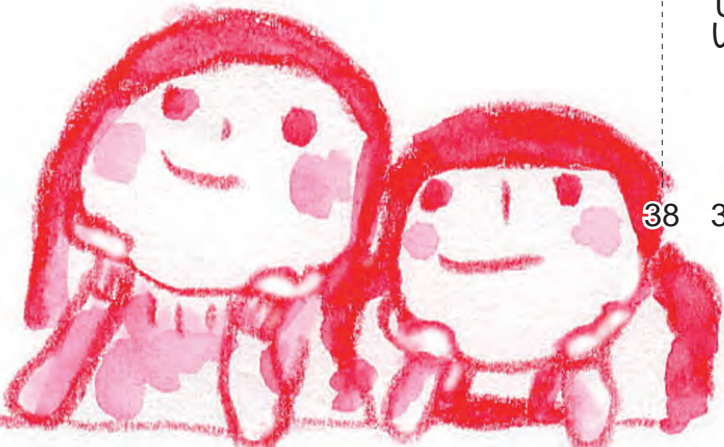
ワークシート ちりがみ ーっ

「あいさつ」をもっと大切にしよう

●たすけと ぼっじっ

ワークシート たすけと ぼっじっ

おおさかめいしよ、今、むかし



うえ はら こう じ
上原 浩治さん

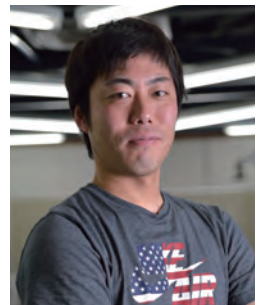
ひと
あのひとからの
メッセージ

みなさん、こんにちは。ポストン・レッドソックスの上原浩治です。わたしは二十三才まで大阪にすんでいました。小さいころから野球が大すきで、小学生時代は地元もとの野球チームに入はいっていました。わたしは野球をやった、たくさんともの友だちができました。友だちと野球をしているときは、とても楽しかったです。今いまも、プロ野球選手せんしゅとして仲間なかたちと野球を楽しんでいます。わたしは、野球をとおして友情ゆうじょうや人ひとを思いやる気きも大切たいせつさを学びました。チームメイトのエラーでまけている試合あひの時は、おちこむチームメイトのために、これ以上いじょう点をとられないようにピッチャーとしてがんばりました。スポーツにはそんな友だち

を思いやる場面ばめんや、まわりの人にとすけられる場面ばめんがたくさんあり、気きもちを一つひとにするということの大切たいせつさを学ぶことができると思います。同じおなく空気をすい、同じようにどうどう行動した友だちは、わたしのたから物ものです。これからもこの仲間を大切にし、さらにふやしていきたいと思っています。わたしは、みなさんに、野球にかぎらずいろいろなスポーツにとり組くんだり、いろいろなあそびをしてほしいと思っています。そして、スポーツやあそびの面白おもしろさをたくさんあじわってほしいと思っています。いっぱいスポーツをして、いっぱいあそんで、たくさんくの友だちを作りましょう。

上原 浩治 (うえはら こうじ)

●1975年4月3日生まれ。大阪府出身。東海大仰星高校時代は外野手兼控え投手。1年浪人して大阪体育大学に入学。1998年、ドラフト1位で読売ジャイアンツに入団。新人1年目に20勝4敗の好成績を残し、最多勝、最優秀防御率、最多奪三振、最高勝率の投手主要4部門を制し、新人王と沢村賞を受賞。2008年の11月にFA宣言でメジャー挑戦を表明し、ボルティモア・オリオールズと契約。FAとなった2012年オフに、ポストン・レッドソックスと契約し、2013年のワールドシリーズでは日本人初となる胴上げ投手となる。



もり わき けん じ 森脇 健児さん

あの人からの
メッセージ

こんにちは。タレントの森脇健児です。みんなは、お母さんのおなかの中から生まれてきたよね。みんなが生まれてきたことは、多くの人によろこびをあたえているんだよ。ぼくには二人の子どもがいるけど、かれらが生まれてきたことは、ぼくの人生の中で一番の感動だった。陸上競技やマラソンで多くの感動を体験したけど、父親として自分の子どもが生まれた時は、ほかにくらべられないぐらいの感動だったよ！

みんなは、学校や地域でしっかりあいさつをしているかな？ いつも元気にまわりの人にあいさつしていると友だちもたくさんできると思う。あいさつをしなくておこられることはあっても、あいさつをしておこられたことは多くの人生の中で一度もない。芸能界では、あいさつはとっても大事なことで、できない人はひとりもいない。みんなも元気に大きな声であいさつしような！

ぼくは自分が言われていやなことは、ぜったいに言わないようにしている。言われたらきずつくし、自分も気分がわるくなったりする。わるぐちを言えば自分にかえってくると思っている。だからわるぐちは言わない。ぎやくに、いいことをしたとき、だれも見えてくれないと思ってもきつとまわりはわかっていて、いいことがやってくると思う。

みんなはすきなこと、楽しいことはある？ なんでもいいからすきなこと、むちゅうになれるものを見つけてほしいな。つづけていたらきつとその先に楽しいことがあると思うよ。がんばって！

森脇 健児 (もりわき けんじ)

●1967年2月5日生まれ。大阪府枚方市出身。日本全国を飛び回り、テレビ・ラジオに幅広く活躍。最近では「森脇健児陸上競技部」を発足し、2008年には、北海道から沖縄までの約2700キロメートルを1年間で走破。また、海外のレースにも参加するなど、月間250キロメートル超のトレーニングや大会への参加等、タレント活動と並行してアスリートとしての活動にも力を入れている。2013年6月には京都で「森脇健児リレーマラソン」を初開催。453チーム、約3000人のランナーが参加し、大成功をおさめる。



1 ゆび ゆび ゆび

たあちゃんは わたしの おとうと。

たあちゃんは 生うまれたばかり。

わたしが ゆびを のばすと、

おまんじゅうみたいに

やわらかくて あったかい 手てで、

わたしの ゆびを にぎろうと する。



たあちゃんは、わたしの かおを じっと 見る。
おなかが すぐと わんわん なく。
おっぱいを のんで すやすや ねむる。

ねむって いる たあちゃんの ほっぺに
ふれたら、
すぐく あったかい。

耳を ^{みみ}よせると

すうすうと いきの 音が ^{おと}きこえる。



たあちゃんの むねに 耳みみを あてると、
とくとくとくと 音おとが する。

おとうさんが

「おとうさんの むねに 耳を あてて ごらん。」
と わたしに いった。

わたしは、おとうさんの むねに 耳を あててみた。
どきんどきんと うごいて いる。

おとうさんの むねも
おかあさんの むねも

どきんどきんして いる。

おとうさんが いった。

「生まれてから 今日まで、

せかいじゅうの 人の おねが、

ずっと ずっと

どきんどきんして いるんだよ。」

たあちゃんの おねに 耳を あてて みた。

とくとくとくと 音が する。



わたしは 自分^{じぶん}の おねに 手^てを おいて みた。

なんだか きもちが ぽかぽかして きた。



(文…資料作成ワーキング会議編 絵…ささきみお)



とくとくとくとくと

●「とくとくとくとく」を^よ読んで^{かんが}考えたこと

Handwriting practice area with five vertical dotted lines for writing.



いのち ^{たいせう}
生命を大切に^{する}

2 ぼく くらん

けんちゃんと まさくん、それにぼく。

ぼくたち 三人さんにんは なかよしだ。いつも いっしょに あそんで いる。

今日きょうは、こうみんかんに あつまって、ちいきせいそうに 出でかける日ひ。

ちいきせいそうの 時ときには、かかりの おじさんが

みんなに 一ひとつずつ あめを くれる。

お家うちが 遠とおい まさくんより 先まきに、ぼくと けんちゃんは、

こうみんかんに ついた。

こうみんかんには 子こどもたちが どんどん あつまってくる。

こうみんかんの おじさんが、子どもたちに あめだまの



入^{はい}った かごを さしだして いる。

「ひとり 一つずつや。来^きて くれた おれいやで。」

わあっと みんなが、おじさんの ところに
あつまった。

ぼくと けんちゃんは あわてて おじさんの
ところに 行^いって、かごの 中^{なか}を のぞきこんだ。

中には、赤^{あか}くておいしそうなあめだまが二^{ふた}つのこっっていた。

ぼくは すぐに あめだまを 一つ とった。

口^{くち}に ほうりこむと、あまい あじが 口の中 いっぱいに ひろがった。

「おいしいで。けんちゃんも はよ食^たべ。」

ぼくが 言^いったら、

けんちゃんは のこり 一つの あめだまを 見^みたまま 言^いった。



「ぼく、いらん。」

「なんで。おいしいよ。」

「だって もうすぐ、まさくんが来るもん。」

ぼくは びっくりして けんちゃんを

見つけた。



こうみんかんの おじさんは、

けんちゃんの 手に あめだまを 一つ わたした。

「ぼく、えらいな。せやけど、だいじょうぶやで。」

あめだまは まだ たくさん あるんやから。」

けんちゃんは、うれしそうに わらって、あめだまを もらった。

ぼくは、「けんちゃん、かっこええなあ」と 思った。





ぼく の こと

● 「ぼく いらん」を^よ読んで^{かんが}考えたこと

Handwriting practice area with six vertical dotted lines for writing.



おも
い
や
る

3 ありがとうのわ

きょう
今日は、

しょうがっこう
小学校の

えんそく
遠足の日。

ゆきさんは、

うきうき しながら

じゅんびを して います。



ねえ
お姉さんが、

ある
歩きやすい くつを

だ
出して くれました。

「ありがとう。」



ゆきさんは、

どうろを

歩いて います。

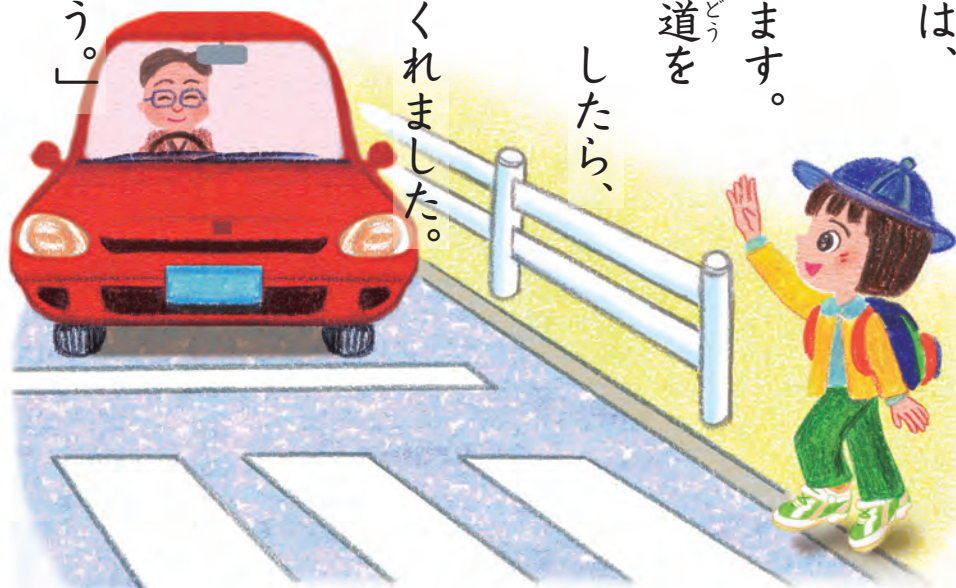
おうだん歩道ほどうを

わたろうと したら、

車くるまが

止とまって くれました。

「ありがとう。」



公園こうえんに

つきました。

ベンチに

すわろうと

したら、

友だちともの

しょうたくんが、

ゆきさんの

すわる ばしよを

つくって くれました。

「ありがとう。」



かえ
みち
帰り道。

おもい リュックを

せおった 先生せんせいが、

ふうふう いきを

しながら あるいて

います。

ゆきさんは、

先生の にもつを

後ろうしろから

ささえました。



「ゆきちゃん、

ありがとう。」

ゆきさんは、

先生の 顔かおを 見みて

にっこり

わらいました。





ありがとうのわ

● 「ありがとうのわ」を^よ読んで^{かんが}考えたこと

Handwriting practice area with six vertical dotted lines for writing.



感謝の
かんしゃ

4 なわとび

「つづけて 十回 とべるように なりましょう。」

体育の 時間に 先生が 言いました。

けんたは、「いやだなあ。」と 思いました。

なぜなら、けんたは なわとびが にがてなのです。

なわを 回すのと、ジャンプするのが、どうしても いっしょに

できなくて、なんと 前とびを しても、足に なわが ひっかかって

しまうのです。

けんたと なかよしの しょうくんも、じょうずに 前とびが できません。

そこで、けんたと しょうくんは、学校が おわった 後に、

いっしょに なわとびの れんしゅうを することに しました。

「十回、とべるようになって、なろうね。」

「うん。じょうずに なわとびが
とべるようになってやろう。」

学校が おわった 後、

けんたと しょうくんは

家の いえ 近くの ちか 公園で、
こうえん

とつくんを はじめました。

はじめは がんばって いた

けんたですが、うまく とべないので、

なわが あしくび 足首に あ 当たって、足が

いたくなって きました。



けんたは、前まえとびの れんしゅうを つづけている しょうくんに、
小ちいさな 声こえで 言いいました。

「ねえ、しょうくん。もうすぐ、家うちの シロの さんぽの 時じ間かんなんだ。

ぼく、帰かえらないと いけないんだけど……。」

本ほん当とうは、今きょう日にちの シロの さんぽ当とう番ばんは お姉ねえちゃんで、

けんたでは ありませんでした。だけど、けんたは そう言いって、
しょうくんの 顔かおを 見みました。

「ねえ。しょうくんは、まだ 帰かえらないの。」

しょうくんは、首くびを よこに ふりました。

けんたは なんだか がっかり しました。

家に 帰かえったけれど、けんたは なんだか そわそわ します。

ゲームを しても、テレビを 見ても、
おもしろく ありません。

しばらく すると、けんたは、

お母^{かあ}さんに 買^かいものを

たのまれました。

新^{あた}しい サンドルを はいて、

けんたは、スーパーに おかいました。

その とちゆうに、公園^{こうえん}の

前^{まえ}を 通^{とお}ると、しょうくんが、

まだ なわとびを して いました。

しょうくんは、たくさん あせを

かいて、くつが だろで



よごれて います。

けんたは おどろいて、立ちどまりました。

「しょうくん。ずっと れんしゅうして いたの。」

「うん。五回 とべるようになったよ。」

けんたは、しょうくんの よごれた くつを 見て、それから、

自分の 足もとを 見ました。

「しょうくん。明日も とつくんしよう。」

十回、とべるようになろう。」

けんたは そう 言いました。

しょうくんの どろで よごれた くつが、

光って 見えました。





なわとび

● 「なわとび」を^よ読んで^{かんが}考えたこと

Handwriting practice area with seven vertical dotted lines for writing.



努力^{どりょく}する

5 ちりがみ 一つ

ゆきこは、お父^{とう}さんと お母^{かあ}さんと いっしょに、遠^{とお}くの 町^{まち}に 旅^{りょこう}行^{こう}に やって 来^きました。

「うわあ、きれいな 川^{かわ}。」

ゆきこは 大^{おお}はしゃぎです。ばしゃばしゃ みずべで あそんで いたら、体^{からだ}が ひえて、はなみずが 出^でて きました。

「ほら、ゆきこ、はなを かみなさい。」

お母^{かあ}さんが ちりがみを くれました。ゆきこは はなを かみました。

はなを かんた ちりがみを 手^てに もって、ゆきこは あたりを

きよろきよろ 見^み回^{まわ}しました。ごみばこは 近^{ちか}くには 見^み当^あたりません。

ゆきこは ちりがみを もったまま、こまって しまって かわべを

歩きまわりました。

すると、川から少しはなれた

草むらに、空きかんや

ビニールぶくろなどのごみが

おちて いるのに 気づきました。

近くには

「ごみはもち帰りましょう」

という かんばんが 立って

います。

ゆきこは 少し

まよったけれど、

もって いた ちりがみを、



その 草むらに ほうりました。

遠くで 見ていた お母さんが、ゆきこの

ところに やって 来ました。

みどり色の 草の 上に、白い

ちりがみが のって いるのを

見て、お母さんが、ゆきこに

言いました。

「ゆきこ、よくないよ。」

ゆきこは ふまんそうな

顔に なって 言いました。

「でも、ほかにも ごみが



すてて あるよ。」

「そうね。でも、

ゆきこも やって いいのかな。」

ゆきこは ほおを ふくらませます。

「だって——。」

お母さんは 少^{すこ}し こわい 顔を

して、ゆきこに 言いました。

「どうして いけないのか、よく 考^{かんが}えて

ごらん。」

ゆきこは 草むらに すてて ある 白い ちりがみを

見たまま 考えました。

——みんな やって いる ことなのに……。



その時^{とき}、ふと、ゆきこの 大^{だい}すきな 学^{がっこう}校^{こう}の 花^かだんが
思^{おも}い^{おも}うかんだのです。

——そう言^いえ^いば、きれいな マーガレットの お花^{はな}の 上^{うえ}に、ちりがみが
おちていた こと^{こと}が あ^あっ^あた^たっ^っけ……。。

しばらくして、ゆきこは 草^{くさ}の 上^{うえ}の ちりがみを、そっと ひろいました。
ちりがみの 近^{ちか}くに おちて いた 空^あき^あかんも ひろいました。
すると、お母^{かあ}さん^{さん}の 手^てが のびてきて、草むらに おちて いる
ビニールぶくろを ひろいました。

ゆきこは、お母^{かあ}さん^{さん}の 顔^{かお}を 見^みました。

お母^{かあ}さん^{さん}は ゆきこに、にこっと ほほえんで くれ^{くれ}ました。



ちりがみ 一つ

ひとつ

●「ちりがみ 一つ」を^よ読んで^{かんが}考えたこと

Handwriting practice area with seven vertical dotted lines for writing.



ルールやマナーを^{まも}る

⑥ たすけと ぼっぴい

むかし、むかしの ことです。ぞうりしょくにんの たすけは、村の
はずれの 小さな 家に、ひとりで くらして おりました。

たすけは、こしらえた ぞうりを 入れた ふろしきを せおって、
町まで 売りに 出かけます。

町に つづく 道には、あおあおした だいこんの はたけや、小さな お社が
あって、たすけは 毎朝、草とりを して いる おばあさんに、「おはよう。」

おちぼを ついばんでいる すずめに、「おはよう。」

だいこん畑の かかしに むかって、「おはよう。」

みんなに あいさつを しながら、町への 道を えっちらおっちら
歩くのでした。



小さな お社の 前まえには、毎朝、しらが頭あたまの じいさんが

ひなたぼっこを して います。たすけは、この じいさんにも、毎朝、

「やあ、ぼっこじい。おはよう。」

と、元げん気に あいさつを して いました。

「ああ、たすけか。いい 天てん気きじゃのう。おはようさん。」

ある日ひの こと。朝、目めを さますと、たすけの おなかなかが キリキリと

いたみはじめました。お水みずを のんでも、家いえに あった 薬草やくそうを

せんじて のんでも なおりません。

「うーむ。いたい、いたい、いたいぞう。」

たすけは ふとんの 上うへで うんうん うなるばかりで、いつもの ように

ぞうりを 売りに 町に 出かける ことが できませんでした。

「おおい、だれか。おいしやさまを よんでくれえ。」

たすけが 大きな 声を出しても、村はずれに ある たすけの 家には
だれも やって 来ません。たすけは こまって しまいました。

三日が たちました。たすけの おなかは まだ なおりません。

たすけは げっそりした 顔を して、おなかを おさえながら、言いました。
「これは まいったぞ。おなかが いたくて 外に 出られない。

いったい わしは どうなって しまうんじゃ。」

その時でした。

「おおい、たすけどん。おるかあ。」

友だちの ごいちどんが、たすけの 家に やって 来たのでした。
たすけは、なみだを ぽろぽろ こぼしながら よろこびました。



「たすかった、たすかった。よく来てくれた、ごいちどん。」

はらが いたくて たまらんのじゃ。」

ごいちどんが、しんぱいそうに 言いました。

「やや。そうだったのか。それは 来て よかった。」

ごいちどんが、すぐに おいしやさまを よんで きて くれました。

おいしやさまの くれた くすりを のむと、たすけの はらいたは、

ケロリと なおりました。

たすけは りょう手^てを 合わせ^あて、よろこびました。

「ありがたや、ありがたや。」

よく おれいを 言った 後^{あと}で、たすけは、ごいちどんに 聞^ききました。

「それにしても、ごいちどん。なぜ わしの 家に 来て くれたんじゃ。」

ごいちどんが 答^{こた}えました。



「それがのう。今朝、お社の前を通った時、ぼっこじいが
わしをよびとめてこう言ったんじゃ。」

『ぞうり売りのたすけが、もう三日もわしに顔を見せん。

ごいちどんは、たすけと 同じ村に くらして おるのじゃろう？

たすけの様子を見に行っ くれんかのう。』

ほいで、こうして やって 来たという わけじゃ。」

それを 聞いて、たすけは、とても うれしく なりました。

つぎの朝、たすけは ぞうりを かついで、元気に 家を出ました。

遠くのお社の前で、いつものように ぼっこじいが

ひなたぼっこを して います。

たすけの 足は、しぜん と 早く なるのでした。





たすけと ぼつとじい

●「たすけと ぼつとじい」を^よ読んで^{かんが}考えたこと

Handwriting practice area with seven vertical dotted lines for writing.

「あつめい」をもっと^{たいせつ}大切にしよう



むかしのどうとんぼり

うた がわひろしげ なにわ めいしよ す え どう
歌川広重「浪花名所図会・道とんぼりの図」

どうとんぼりは、今から 400年ほど 前に、安井道頓と いう 人が、
自然の 川に 手を くわえて 作りました。どうとんぼりが
できた おかげで、たくさんの ものを はこぶ ことが
できるように なり、大阪の 町は さかえました。

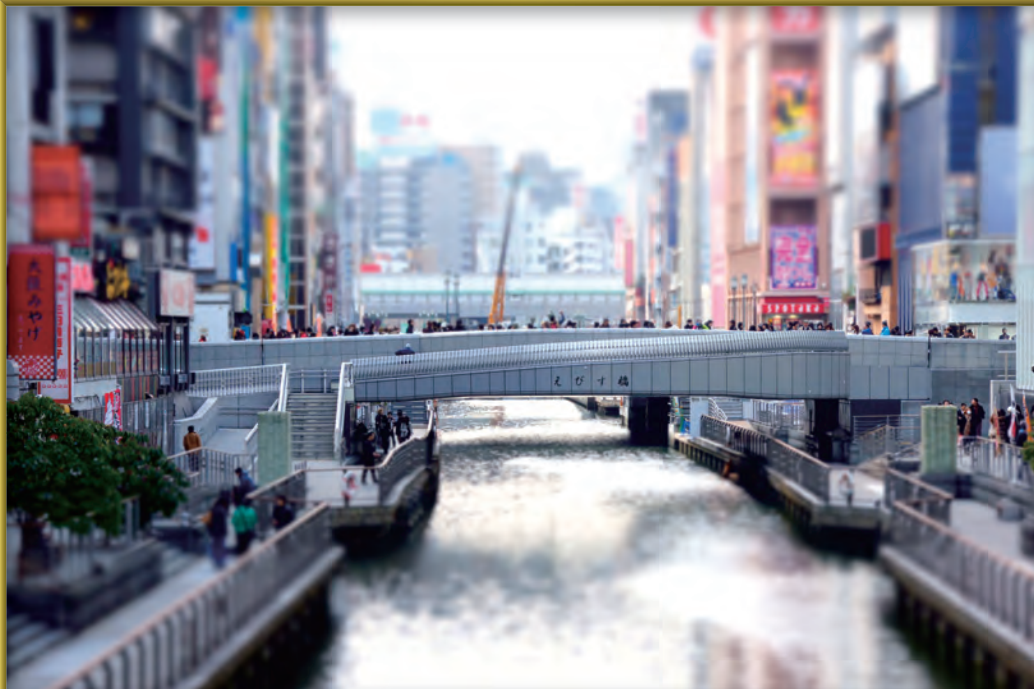


今のどうとんぼり

どうとんぼりは、今では、たくさんの ビルが ならび、
おおぜいの 人が 行きかう 場所になっ ています。



いま おおさかめいしよ、今、むかし



さいせい ふ みるんどう
「こころの再生」府民運動

しょうがっこう ねん
小学校1・2年

たいせつ み なお
「大切なこころ」を見つめ直して

指導助言者 杉中 康平 四天王寺大学准教授

「こころの再生」府民運動の趣旨を盛り込んだ道徳教育資料作成
ワーキング会議（略称：資料作成ワーキング会議）メンバー

向井 正明	大阪府教育委員会主任指導主事
浅井 美佐	大阪府教育委員会主任指導主事
澤田 章	大阪府教育委員会指導主事
藤田 卓也	大阪府教育センター指導主事

発行：大阪府教育委員会

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目

平成27年3月

イラスト ● EASTNINE / アフロ / イラストAC / 井川ゆり子 /

ささきみお / さくらみゆき / たかぎまさゆき /

松沢ゆきこ

写真 ● アールクリエイション / アフロ / 坂本照
